

月探査ワーキンググループの進め方(案)

第 1 回目(9 月 6 日(木))

宇宙探査の意義・目的と月探査の位置付けについて

- ・ 探査の意義・目的 なぜ探査なのか
 - ・ 月探査の意義・目的 なぜ月なのか
- 宇宙探査に関わる我が国の取り組み

第 2 回目(9 月 18 日(火))

宇宙探査に関わる国際情勢、法的枠組

- ・ GES と各国宇宙探査計画
- ・ 月協定の経緯と現状

第 3 回目(10 月初旬)

我が国の月探査計画

- ・ 月探査プログラム計画
- ・ 月探査における国際協働の進め方

WG 報告骨子案について

第 4 回目(10 月中下旬)

WG 報告書案について

開催時期は、現時点における目安である。

我が国の宇宙探査に関する政策

【宇宙開発に関する長期的な計画骨子案(平成 19 年 7 月)】

宇宙探査への挑戦

我が国の強みを活かし、未知のフロンティアである宇宙の探査に果敢かつ戦略的に挑戦する。

人類にとって未知の領域である、月、惑星、小惑星といった太陽系の天体の探査について、我が国もまた、果敢かつ戦略的に挑戦する。

この場合、我が国の独自性及び技術的優位性を発揮できる課題に選択・集中して、当面、科学的及び技術的目的に基づく無人探査を中心に実施する。将来において、有人活動を可能とすることを視野に入れつつ、基盤技術の開発を着実に進める。また、宇宙探査は、その設計から成果を得るまでの期間が、他の分野と比べて相対的に長くかかることから、数年程度をサイクルとして計画的に進めるとともに、一国のみで対応することが困難な大規模な宇宙探査については、国際協力の枠組みの中での協調と連携を重視する。国際協力に際しては、我が国の独自性及び技術的優位性に加え、自律性を保つことに留意する。

月探査に関しては、今後、作業部会を設置してさらに検討を行うこととする。また、小惑星や惑星への新たな探査に挑戦すべく検討を進める。